

vol.6 / 2022.08



特集 「つながり」が生み出す可能性

# 患者様の「安心」と「満足」を追求します

「つながり」が生み出す可能性



連携医療機関との学術的交流。症例の経過を通じて互いの役割的理解を深める「症例報告会」



近年はオンラインで開催



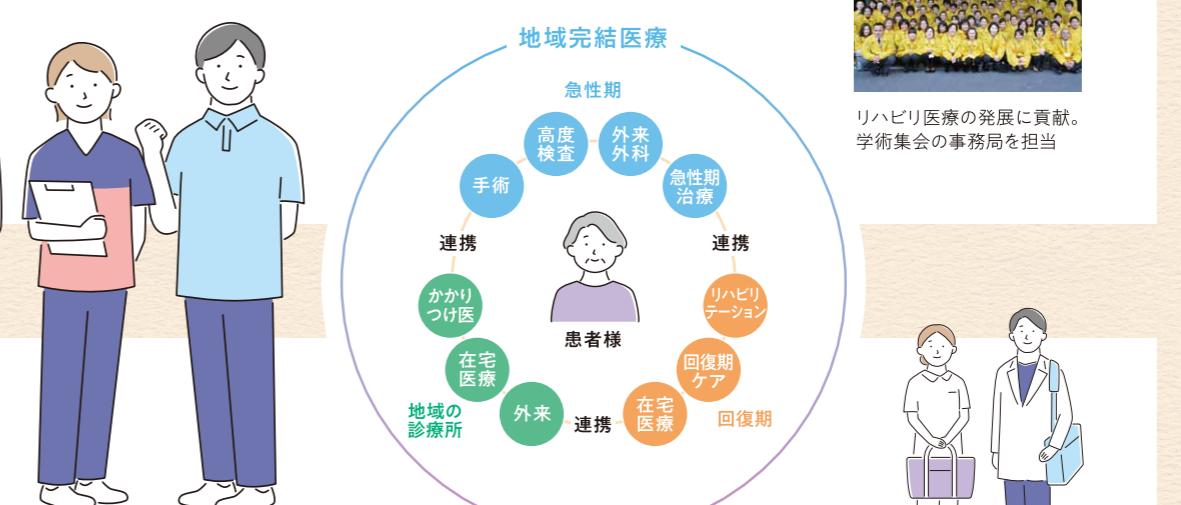
リハビリ医療の発展に貢献。  
学術集会の事務局を担当



## 医療

### スムーズな連携で、継続的な医療を提供

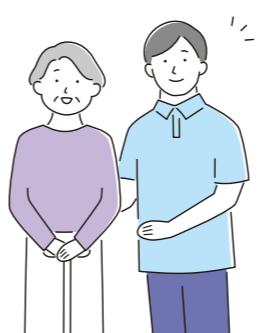
「救命治療(急性期)」「身体機能の改善(回復期)」「生活の質向上(生活期)」の役割に応じた専門性を発揮し、互いにスムーズな連携を図ることで、患者様に継続性のある適切な医療を提供します。



## 介護

### 病気になっても、生活の質を保つ

高齢化の進展に伴い、治療も経過も長い期間に及ぶ疾患を抱える高齢者が増加しました。病気と共存しながら、生活の質(QOL)の維持・向上を図るために、医療と介護のスムーズな連携でお応えします。



グループ内でもリハビリを中心に医療・介護を「面」で支えるネットワークを構築



施設・在宅サービス・居宅介護支援事業所の相談員らが定期的に研修会を実施。病院・クリニックの相談員とも交流を持ち、相互理解を深めてグループ内の医療・介護連携を円滑に進める



農業



運転支援

社会復帰に向けた「運転支援訓練」を実施



## 異業種

### 医療・介護サービスとしての満足度向上

さまざまな人生背景を有する患者様、ご利用者に、いつでも安心してご満足いただけるよう現場では様々に創意工夫がなされています。異なる業種との連携により新しい価値を形にしてきました。



オリジナル商品

市内のシフォンケーキ専門店とコラボレーションした「大原産米粉100%のシフォンケーキ」

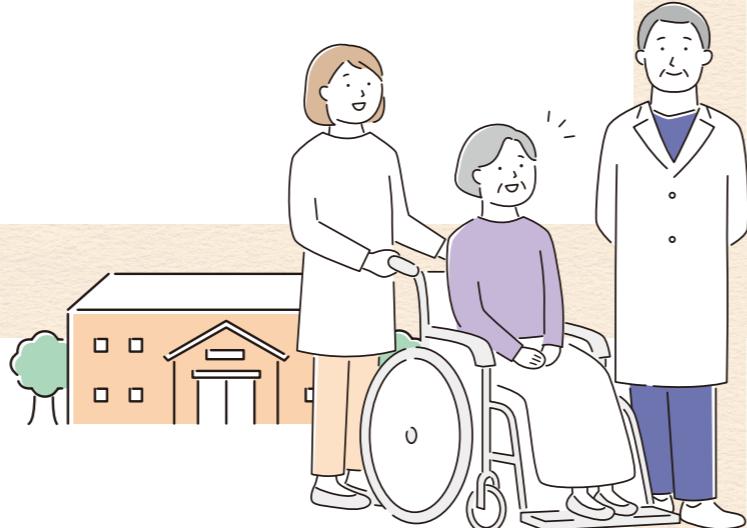


予防啓発

「自分らしく」を考える映画鑑賞会  
in京都シニア大学ウェルネス部。  
屋内外で活動を展開



三千院門跡式典による法話や花祭りなどのレクリエーションを開催。合同慰靈祭や、職員研修も



## 地域

### 地域に根差し、地域を支える

大原の地に根差し、培われたグループのアイデンティティ。人と向き合い、風土を取り込むなかで生まれ出した活動を通じて地域の健康・医療・介護を支えます。



京都市内の各老人福祉センターが主催する健康教室に講師を派遣

大原体育振興会・大原自治連合会・大原社会福祉協議会との健康プロジェクト

バス社会の京都の暮らしに向けて京都市交通局や連携機関医師の協力を得て実車乗降訓練を開催



地元農家との交流を通じ、積極的に地産地消を展開。農業勉強会に共同参加することも



追い求めるのは、患者様、ご利用者にいつでも安心してご満足いただける医療・介護サービス。「心によりそい、人をささえる」視点で医療・介護にとらわれない「つながり」です。

児玉 博行

Hiroyuki Kodama

京都大原記念病院  
グループ代表



尼川 龍一

Ryuichi Amakawa

日本バブテスト病院  
理事長・院長



代表は「『競合』ではなく、『連携』視点で、地域を支えていけるように。お役に立てたらと思います。」と受け、今後の機能連携に話題が及びました。児玉代表は、「これまで近い機能を有する医療機関が水平的に增加していくましたが、急性期、回復期と垂直的に機能分化・連携を強めていくことが命題です。」とし、また京都近衛リハ病院前に位置する大学病院との連携について「(大学病院や公的病院などとの)『官民連携』という切り口でもモデルになっています。



機関から選択いただいたことを嬉しく思います。」との言葉に対し、児玉

て地域医療を支える同院への贈呈が決まりました。

当日、尼川理事長の「数ある医療機関から選択いただいたことを嬉しく思います。」との言葉に対し、児玉博士は手術室機材の一部です。地域の貴重な医療資源として有効活用したい考えに、バブテスト病院が賛同。京都大原記念病院グループと同じく京都市左京区に根差して地域医療を支える同院への贈呈が決まりました。

京都近衛リハビリテーション病院

(以下、京都近衛リハ病院)

の「手術

室機材※」が、日本バブテスト病院

(以下、バブテスト病院)

に贈呈され

ました。これに伴い、6月13日に京都

大原児玉山荘で、京都大原記念病院

グループ児玉博行代表から、日本

バブテスト病院尼川龍一理事長に

目録が贈呈されました。

贈呈したのは手術室機材の一部で

す。地域の貴重な医療資源として有効活用したい考えに、バブテスト病院が賛同。京都大原記念病院グループと同じく京都市左京区に根差して地域医療を支える同院への贈呈が決まりました。

京都近衛リハビリテーション病院

(以下、京都近衛リハ病院)

の「手術

室機材※」が、日本バブテスト病院

(以下、バブテスト病院)

に贈呈され

ました。これに伴い、6月13日に京都

大原児玉山荘で、京都大原記念病院

グループ児玉博行代表から、日本

バブテスト病院尼川龍一理事長に

目録が贈呈されました。

## 機能連携を深化。

## 手術室機材、目録贈呈を山荘で。

# 左京区モデルの発信へ。



京都近衛リハビリテーション病院にて言葉を交わす関係者

※無影灯、洗浄器、乾燥機

目まぐるしく変化する社会の期待に応えるために、あるべき姿を模索し続けます。

を待たずして、(連携機関同士が)お互いの機能を理解し、有効な医療連携が進んでいくようを感じています。」とし、「大学病院は私たちも日頃連携を深めています。(左京区)の良好な関係性を活かして、『左京区モデル』をぜひ目指していきましょう。」と賛同の意が示されました。





### 茶の湯から学ぶ、おもてなしの心

京都の茶道美術図書出版社 淡交社がプロデュースする体験型講習「心実(こころみ)茶室」に参加しました。この講習は、いわゆる「茶道のお稽古」ではなく「茶の湯の心」からおもてなしの精神や相手を敬う心を学ぶことを目的とする会です。京都大原記念病院グループが掲げる「心によりそい、人をささえる。」を実践するために、同社とタイアップした職員の心を磨く新しい職員研修企画の検討を進める一環で体験しました。体験時、床の間に飾られていた掛け軸「白珪尚可磨(はっけいなおみがくべし)」のごとく、レベルアップを目指し続けます。



### 御所南クリニックでパーキンソン病勉強会を開催

若手セラピストを対象に、パーキンソン病についての勉強会が開催されました。講師を務めたのは八木彩香医師とLSVT®BIGの認定資格を持つ理学療法士。冒頭、症状や主な治療法といった疾患の概要を解説。リハビリへの期待が高まっている一方、社会資源は限られていることに触れ、クリニックでパーキンソン病のリハビリを担う意味も確認しました。参加した17名からも活発に質問が投げられました。一層高まる社会の期待にお応えして参ります。

LSVT®:アメリカで考案されたパーキンソン病に対する集中的な運動プログラム。  
"動作の大きさ"に焦点を当てる点が特徴的。



### 新人看護師に向けた、緊急時対応シミュレーション研修

急性期に比べると、患者様の急変が少ない回復期。いざという時に正しく判断し、迅速に行動できるよう実施されました。参加したのは1~3年目の看護師3名に加え、指導者と病棟管理者。「実際に目の前に呼吸停止している人がいると思って取り組んでください(管理者)」と、本番ながらの雰囲気で実施されました。研修後、参加者には良かった点とともに「急変が起らぬよう準備する力が大切。でもまずは困った時に誰かを呼べるようになって欲しい。」とフィードバックされました。一人前の看護師に向けて、様々な研修が続きます。



### 病院・クリニックの診療実績をウェブサイトで公開

京都大原記念病院グループにおけるリハビリ医療(京都大原記念病院、京都近衛リハ病院、御所南クリニック)の2021年度の診療実績を公開しました。回復期リハビリ病棟では、近年、一層リハビリの「質」が求められ、実績を公表することで更なる質向上につなげていくことが求められており、毎年ウェブサイトで公表しております。今年度は新型コロナウイルスによる影響も見られましたが、国の定める基準や全国平均を上回る結果となりました。今後も質の高い医療の提供を目指し、スタッフ一同邁進して参ります。



※コロナ以前は毎年約300名が参加されるなど地域の一大行事として定着していました。

今年度の活動も、社会情報に応じたあり方を検討していく方針です。



新型コロナウイルス感染拡大とともにない、2020年から「大原学区運動会※」がやむなく中止に。運営する大原体育振興会から代替で「健康」をテーマに新たな試みができるいかとご相談いただきました。21年夏頃から振興会・大原自治連合会・大原社会福祉協議会の関係者で議論を重ね、「健康なら医療費も抑えられて、将来の自由な時間やお金の貯蓄につながる」と「健康は未来への貯蓄」をコンセプトに決定。貯金通帳を模したパンフ

レットも用いて、22年3月に小出石町で「大原健康プロジェクト」をトライアル開催し、近隣にお住まいの24名が参加されました。「歩く」をテーマに京都大原記念病院の理学療法士が、運動効果を高めるウォーキングや運動習慣のあり方を解説し、個別のウォーキング指導を実践。参加者は熱心に参加されていました。今後も状況に応じた柔軟な形を検討し、ヘルスケアの視点で活気ある地域づくりに関わって行きたいと考えています。



※写真は過去に実施した活動のものです。

※内容は本記事の執筆時点(22年7月)のものであり、今後変更となる場合がございます。



自分の体の状況を正確に掴む体力測定や、脳卒中予防などをテーマに医療情報をお届けする講演会・運動・料理(栄養改善)など、これら各種体験を提供する「健康教室」。加えて幅広い方に「楽しく、かつ、健康」を意識していただく「ワークショップ」を文化・芸術、農業など各分野の団体とタイアップして段階的に展開する予定です。京都大原記念病院グループでは、患者様が回復期リハビリ病棟へ入院して以降、各医療・介護サービスを通じて人生の最期まで関わるケースが珍しくありません。しかし、退院後の支援が必要ない場合、以降の関係は薄くなりがちで、その後の変化にきめ細やかなサポートがしきれない状況にあります。企画は何かあった時の「断続的な関係ではなく、必要な時にいつでも頼れる、継続的な関係づくり」を目指すのです。いつまでもその人らしく生きることを支え、「層・地域」と包括的に関わる存在となることを目指します。

人生の最期まで関わるケースが珍しくありません。しかし、退院後の支援が必要ない場合、以降の関係は薄くなりがちで、その後の変化にきめ細やかなサポートがしきれない状況にあります。企画は何かあった時の「断続的な関係ではなく、必要な時にいつでも頼れる、継続的な関係づくり」を目指すのです。いつまでもその人らしく生きることを支え、「層・地域」と包括的に関わる存在となることを目指します。

## 地域が主役の健康づくり

### 大原健幸の郷・新企画・今秋始動へ

## 地域を包括的に支えるための 新たな試み



京都大原記念病院グループ  
KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK

orinas  
オリナス  
について

患者様、ご利用者、ご家族の心に寄り添い不安を取り除くために、職種や組織、医療や介護の枠にとらわれず、人や地域と織りなすつながりのなかで生まれる様々な場面を季節ごとに紹介します。

お問い合わせ

TEL／075-744-3121(代表)

FAX／075-744-3126

MAIL／kouhou@kyotoohara-gr.jp



WEB



Facebook